

Program note * プログラム・ノート かんばら ひとし

ダッタン人の踊り／ポロディン (歌劇「イーゴリ公」より)

ポロディンは1833年帝政ロシアに生まれました。本職は医師でしたが、バラキレフ、キュイ、ムソルグスキー、リムスキー＝コルサコフらと共にロシア五人組を結成し、反

西欧・反プロフェッショナリズム・反アカデミズムのロシアの民族主義音楽を目指しました。

取り上げる題材も、ロシアの風土や歴史を題材にしたものが多く、歌劇「イーゴリ公」も中世ロシアの叙事詩『イーゴリ軍記』を題材にしています。



イーゴリ公は妻のアドバイスを聞かずに外敵ポロヴィッツ人との戦いに遠征しますが、息子と共にあえなく捕虜となってしまいます。この曲は外敵ポロヴィッツ人のハーン(首長)がイーゴリ公をもてなすシーンで演奏されるます。

捕虜生活の中でイーゴリ公の息子は、ハーンの娘と恋中になり、公認となります。イーゴリ公はハーンに「我々と再び戦わないと約束をするなら自由を与える」と言われますが、武士の意地で断ってしまいます。

曲は、ダッタン人の娘たちの踊りに続いて、フルートソロで始まる清涼なイントロのあと、オーボエが「風の翼に乗ってふるさとへと飛んでゆけ、懐かしい歌よ」と捕虜と

